関西学院大学社会学部教授　島村 恭則さん

「元気」は、もらえるものなのか？

「元気をもらう」という表現がある。タレントやスポーツ選手の活動を間近に見て、なんとなく元気になったときなどに使う。20年くらい前から聞くようになった。今ではテレビでもよく耳にする。当初、私はこの言葉に大きな違和感を抱いていた。「元気は、人からもらうものではなく、自分の内側から湧いてくるものだ。人からもらうなんて、なんと主体性のないことか」と。

だが、しばらくして、この表現の背後には、意外に深い文化的な感覚が横たわっているのではないかと思うようになった。どういうことか。

日本の伝統的な民間信仰の世界では、霊力・霊魂の存在が広く信じられてきた。霊力とは、物理的な力とは区別される超自然的、神秘的な力のことで、これによって作物が実ったり、人が元気になったりするとされる。また、霊魂とは、霊力が凝固して玉（タマ）のような形になったものだと考えられてきた。スマホのバッテリーに相当するのがA、電流がBと考えるとわかりやすい。

人間の体にはバッテリーとしてのAがやどっていて、またBも体内に充満している。だが、日常生活の中で次第に霊力が枯渇してくるので、①チャージが必要になる。そのための機会が、祭りや正月などの年中行事だ。このとき、異界から神がやって来て新鮮な霊力や霊魂をチャージしてくれる。すると再び活力ある日常を過ごせるようになる。昔の人はこう信じていた。

そして、このチャージは、神以外に人間同士でも行えると考えられていた。正月や盆に、イキミタマ（生きた者の霊魂）といって、子が親に餅や団子、鯖（さば）などを贈る習慣が各地にあった。若い者の元気な霊力・霊魂の一部を分割して食物に付着させ、それを年長者が食べることで生命力が強化されると信じられていたのである。お歳暮やお中元は、このイキミタマが変化したものだ。目下の者の霊力・霊魂の一部を贈り物に付着させて目上の者に献上するところにこの習慣の意味があったのだろうと民俗学では分析している。

ここから分かるのは、②霊力・霊魂は、あげたりもらったりできると信じられてきたということだ。これをふまえると、タレントやスポーツ選手から「元気をもらう」という表現の背後には、彼らの霊力・霊魂の一部をもらっているという感覚があるのではないかと思えてくる。

あるテレビ番組の中で、この話を共演相手のタレントの方にしてみたところ、「なるほど。それでわかった。以前、私に触れると良いことがあるという噂（うわさ）が立って、やたらとファンから触れられたことがあったのは、これのことだったのか！」との反応。タレントとは、もともと「特別な才能（を持つ人）」という意味である。そのタレントの霊力・霊魂の一部をファンたちは分けてもらおうとしていたのだろう。

日本の民間信仰的な感覚では、「元気」はもらえるものだったのだ。

しまむら・たかのり　関西学院大学社会学部長・教授、民俗学者。NHK・Eテレ「趣味どきっ！　開運　神秘のちから　縁起物」に出演中。主な著書に「みんなの民俗学」「現代民俗学入門」（編著）など。

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄ABに「霊力」「霊魂」のどちらかを入れましょう。

A		B	

2 傍線部①「チャージ」の機会を4文字以内で答えましょう。

3 傍線部②の習慣を、本文中から3つ抜き出して書きましょう。

ＮＩＥワークシート中～高校

NIEワークシートのこたえ（2024年12月17日公開）

◆ワークシート「元気はもらえるのか(国語)」
2024.12.15付　朝刊　4面　解答

１ Ａ 霊魂　Ｂ 霊力

２ 年中行事

３ イキミタマ　お歳暮　お中元　(順不同)